

23 麻酔科研修プログラムの概要

1. プログラムの目的と特徴

本院は、年間約 6500 例の手術件数があり、うち約 5000 件の症例の麻酔管理を行っている。本院は、32 診療科を有する総合病院であり多彩な手術症例を有している。また救命救急センターを併設していることから緊急手術も多く忙しい日々を送っている。医療技術の進歩から、これまで手術に至らなかった症例やリスクの多い症例、高齢者が手術室に搬送されてくる。また、保険点数の改正から、在院日数の短縮が要求されている。これらに対し、麻酔科として安全で確実な、質の高い麻酔管理が必要とされている。社会情勢に配慮しつつ、麻酔科医としての技術、知識、資質を獲得されることを希望する。

2. 研修内容と到達目標

1 年目

麻酔前術前診察、術中患者管理を行う。1 年目の術中管理は術前のリスクが軽度な症例、手術侵襲の少ない症例について行う。麻酔前術前診察は、麻酔方法についての説明、術中・術後に起こりうること、および患者の立場に配慮しつつ、しっかりと周術期のことについて説明できるようにする。術前患者評価において、患者背景、合併症が麻酔をするうえでどのような問題点があるか、また、その対策は何かを勉強する。術中患者管理において、気管挿管、ラリンジアルマスク挿入、動・静脈ライン確保、脊椎麻酔、硬膜外麻酔の技術の修得、向上に努めることは当然のこととして、手術内容の把握、刻々と変化する患者状態の評価、モニターに映し出される血圧、心電図、パルスオキシメーターやカプノグラフ、筋弛緩モニターの理解ばかりでなく、術野で何がおこなわれているかにも注意する。手術終了後は病棟にて患者の状態、例えば循環動態、呼吸状態、術後痛、合併症の有無等のチェックをし、質の高い麻酔管理が行い得たか否かを評価する。

2 年目・3 年目

ハイリスク症例や緊急手術症例、開心術症例の麻酔管理を加える。

麻酔科外来に週 1 回指導医とともにでて、ペインクリニックの研修を行う。

ペインクリニックは帯状疱疹後神経痛、腰・下肢痛、手術後疼痛、外傷後疼痛等、難治性の痛みを扱っている。各種神経ブロック(安全性、確実性の見地からエコーや透視をガイドとした神経ブロック)の実践、NSAID やオピオイドはもとより、抗うつ剤や抗てんかん剤等の鎮痛補助薬の使用に精通していただく。

医療は 1 人で何でも行えるものではなく、お互い力を出し合い、補い合って成り立つものとする。手術室においては、術者、看護師、臨床工学士、手術室スタッフとよくコミュニケーションをとってことに対処する術を身につける。

豊富な手術症例から普遍的な事実を見出すべく、常に問題意識をもって日々の臨床に臨む。そこから得られた知見があれば積極的に学会、研究会に参加して世に問うようにする。

さらに、それを文章に残すことが理想である。